

令和5年8月1日

## 「スポーツ文化ツーリズムアワード2023」の公募を開始します ～スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定による 「スポーツ文化ツーリズム」を推進します～

スポーツ庁及び文化庁は、スポーツ文化ツーリズムの推進に寄与する先進的な取組や今後スポーツ文化ツーリズムの実現を目指す取組の発掘のため、昨年に引き続き、観光庁と共同で8月1日より、「スポーツ文化ツーリズムアワード2023」の公募を開始します。取組の公募を行った後、有識者等の意見を踏まえ、優秀な取組を選定・表彰いたします。（同時発表：観光庁）

スポーツ庁、文化庁及び観光庁では、スポーツや文化芸術資源の融合により、新しい地域ブランドや日本ブランドを創出し、観光振興・地域振興を推進することを目的として連携を図り、「スポーツ文化ツーリズム」を推進しています。

応募のあった取組やイベントの中から「スポーツ文化ツーリズム賞」「スポーツツーリズム賞」「文化ツーリズム賞」の3つの賞を、「スポーツ文化ツーリズムアワード2023」として選定・表彰します。

また、スポーツ庁が推進する武道ツーリズムや、文化庁が推進する日本遺産、食文化といった特定の分野に特化した取組や新しい観光の取組に対し、特に優秀な取組があった場合は「特別賞」として選定・表彰します。

### 【スポーツ文化ツーリズムアワード2023 公募要領】

#### 1. 賞の構成（※昨年度の受賞団体については別紙をご覧ください。）

本アワードは、次の3賞で構成する。また、武道や日本遺産、食文化といった特定の分野に特化した取組や新しい観光の取組に対し、特に優秀な取組があった場合は特別賞を設定する。

○スポーツ文化ツーリズム賞

○スポーツツーリズム賞

○文化ツーリズム賞

○特別賞（武道、日本遺産、食文化、新しい観光のいずれかの分野において優秀な取組の中から選定）

## 2. 応募要件

次の①～④のすべてを満たすイベント又は取組とする。

- ① 「スポーツ」と「文化資源」のいずれか又は両方と「観光」が結び付いた取組（スポーツ×文化×観光、スポーツ×観光、文化×観光）であること。
- ② 国内外の旅行者の増加、長期滞在を促す仕組みや地域への経済効果波及につながる工夫があること。
- ③ 地域の活力の着実な増加につながるものであること。
- ④ 2019年以降に開催されていること（プレ大会や準備大会等は含まない。）。

### 【取組例】

スポーツや芸術・文化鑑賞を体験できる長期滞在型レジャー／世界文化・自然遺産の中でのウォーキング／伝統文化を取り入れた踊りの体験／デジタル技術等の活用により遠隔地や任意の時間帯から参加できるスポーツ大会／オンラインで行うワークショップによる地域スポーツや伝統文化を継承する取組／従来の観光にとられない新しい旅の形を実現した取組 等

## 3. 公募期間等

令和5年8月1日（火）から9月29日（金） 17：00まで

公募要領は、次のURLをご覧ください。

スポーツ庁URL：[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/boshu/detail/jsa\\_00237.html](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/boshu/detail/jsa_00237.html)

文化庁URL：[https://www.bunka.go.jp/shinsei\\_boshu/kobo/93921601.html](https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/93921601.html)

### <担当>

スポーツ庁 参事官（地域振興担当）付

専門職 岡田 （内線 3931）

地域振興係 西澤 （内線 "）

stiiki@mext.go.jp

文化庁 参事官（文化拠点担当）付

文化戦略官 溝口 （内線 5051）

総括係長 久野 （内線 4869）

bunkankou@mext.go.jp

電話：03-5253-4111（代表）

# 別紙

(昨年度の受賞団体)

# スポーツ文化ツーリズムアワード2022

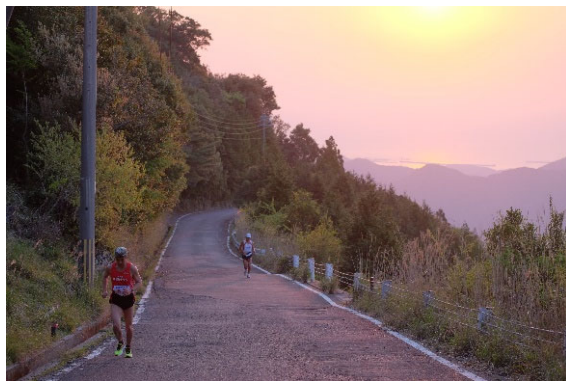
## 【スポーツ文化ツーリズム賞】入賞



(申請団体)

奥熊野いだ天ウルトラマラソン実行委員会

# 奥熊野いだ天ウルトラマラソン



### 取組概要

世界遺産である和歌山県 熊野エリアで行われているウルトラマラソン大会です。1999年からスタートし、2023年には第24回が開催されました。

地域住民、事業者が一体となって取り組んでいる大会イベントです。地域住民や事業者による仮装しての応援や、熊野地域の特産品を提供することで地域のブランディング力を高める取組となっています。また、観光名所も取り入れたコースが選定されています。

### 評価ポイント

- 地元と一体となったスポーツと文化の組み合わせによるコンテンツであり、総合完成度が高い。
- 世界遺産の熊野を舞台に地域性が高く、地域を巻き込みながらコンテンツを組み立てられている。
- 参加者のマーケティングデータを取り次年度につなげている点を評価。

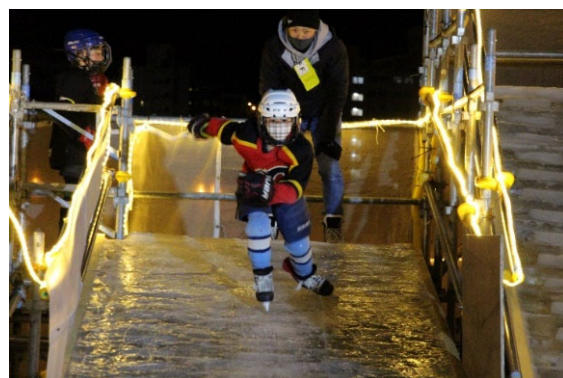


# スポーツ文化ツーリズムアワード2022 【スポーツツーリズム賞】入賞

(申請団体)

くしろウインターパーク実行委員会

## くしろウインターパーク



### 取組概要

冬の北海道 釧路で2021年から行われているイベントです。遊歩道を凍らせた日本初の周遊型屋外リンクが特徴で雪・氷をフル活用した屋外アクティビティとなっています。休日には気軽に参加できるイベントも多数用意され、毎日来ても飽きないパークにすることが目的となっています。更には、新種目として注目を集めるアイスクロス競技の体験要素がパークに含まれていることで、スポーツインバウンド需要拡大が見込まれています。

### 評価ポイント

- スポーツ振興という観点とともに、釧路ならではのイベントという意味も含めて地域性が高い。
- 冬の釧路の地域活性化という観点が非常におもしろい。
- 地域住民を含めて、観光客・インバウンド両方のターゲットに訴求できている点を評価。

# スポーツ文化ツーリズムアワード2022 【文化ツーリズム賞】入賞

(申請団体)

中津玖珠日本遺産推進協議会



## 地域住民が中心となった観光体験プログラム「やばはく」の開催



### 取組概要

令和2年度より大分県 耶馬溪エリアにて行われている、「やばはく」という観光体験プログラムです。

「やばはく」とは、日本遺産の構成文化財に五感で触れながら、トレッキングやウォーキング、サイクリングなどが体験できるプログラムです。

ブランディングを進めつつ、景観や歴史的建造物である構成文化財と地域の特色を結び付け、地域主体となるイベントや観光商品の開発が目的となっています。

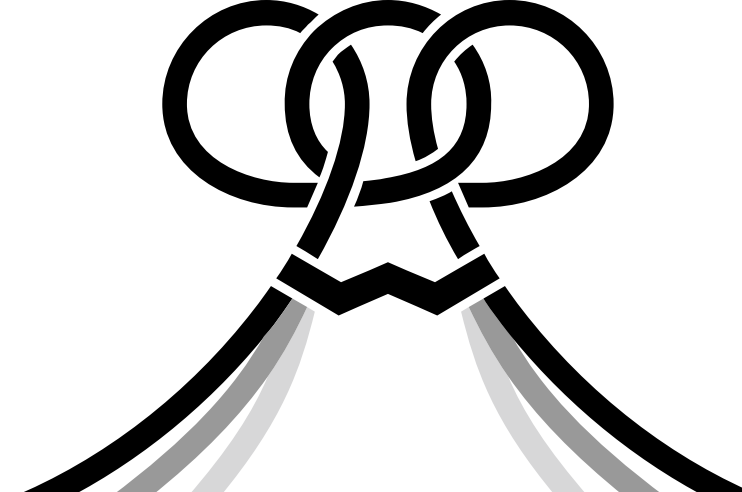
### 評価ポイント

- 日本遺産、世界遺産の登録だけに頼るのではなく、どう利活用するのかの好事例。
- 多彩なスポーツの組み合わせにより、多くの年齢層や愛好者層にしっかりアプローチしている点を評価。
- ガイドの育成や子供のガイドテキスト等、地元の子供達に啓蒙している点も評価。



# スポーツ文化ツーリズムアワード2022 【武道ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)  
半弓道場



## GIVE IT A SHOT! 矢ってみよう!



### 取組概要

岐阜県高山市の半弓道場にて行われている取組です。和弓を用い、弓道の1/4の距離的に向かい矢を放つ、明治時代に大流行した遊び/競技です。2018年から英語対応をし、常連客、日本人観光客、外国人観光客が、同じ時間に同じ場所で楽しんで、讚えあうような特別な空間となっています。営業は夜の3時間となっており、「夜、外に遊びに行ける町」として高山市の観光地となっています。



### 評価ポイント

- 飲食街の中の一つのエンターテインメントとして成立している点を評価。
- 外国人をどのように呼び込むかをしっかり調査している。
- 情報発信も色々と工夫しており、来訪者のターゲット設定や目的が明確である。

# スポーツ文化ツーリズムアワード2022

## 【日本遺産ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

ワイン文化日本遺産協議会

# 牛久シャトー日本遺産フェスタ



### 取組概要

平成28年度よりテーマを変えて実施されました。令和2年度の牛久シャトーの日本遺産認定を契機に、通算3回目である令和4年度では、茨城県内の日本遺産自治体などが参加する日本遺産の認知度向上及び地域活性化を目的としたイベントとなりました。自治体の出店だけでなく、牛久市と連携するプロスポーツクラブによるイベントブースの出展や、茨城県ノルディック・ウォーク連盟による牛久シャトーをめぐるイベントを行いました。

### 評価ポイント

- 日本遺産「日本ワイン140年史」のストーリーを体験してもらうわかりやすい取組になっている。
- ワインに関心がある方以外のファミリー層や若年層に向けた地域への取組を評価。
- ワインに関しては牛久シャトーが日本の近代化の中で果たした役割は大きい。



# スポーツ文化ツーリズムアワード2022

## 【食文化ツーリズム賞】特別賞

(申請団体)

東京都 台東区

### 「江戸たいとうサステイナブル／台東区版SDGs」の実現



#### 取組概要

2021年度より東京都 台東区内をめぐるツアーが実施されています。

有形・無形の区内文化資源に観光面からの新たな視点や価値を加えた高付加価値なコンテンツを開発することで、「文化資源の保存と観光活用の両立」を図るなど、観光の持続的発展を推進していくことが目的となっています。江戸由来のコンテンツに新たに光を当てることで、区内他事業者への水平展開や国内への汎用が見込める取組となっています。

#### 評価ポイント

- サステイナブル都市である江戸に学ぶというテーマ・ストーリー性が良い。
- 多くの事業者を巻き込みながら組み立てられており、高付加価値商品で売ることによって、地域に還元がされている点を評価。
- 職人に着目したアプローチも外国人受けが良い。